

所属・資格 国文学科・教授

申請者氏名 武内 佳代

研究課題		近現代日本文学のジェンダー表象とメディア産業に関する研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	本研究では、近現代日本で発表された小説作品におけるジェンダー表象について再検討を行うとともに、小説作品をとりまく雑誌・映画をはじめとするメディア産業の布置について調査・研究を行い、文学作品の新たな位置づけを行った。具体的には、研究対象となる戦後から現代の小説におけるジェンダー表象として、主として男性ジェンダーに着目した。また、これを並行して、女性ジェンダーの問題も取り上げ、分析を行った。
	研究の 結果	<p>まず、単著『クィアする現代日本文学—ケア・動物・語り』に書き下ろした論考で、村上春樹の短編小説「七番目の男」を取り上げ、本作で過去の出来事を語る語り手について、男性性研究とトラウマ批評の観点から再解釈を行った。これにより、従来とはまったく異なる意味内容、すなわち、トラウマ研究者の宮地尚子が指摘する、極めて社会的に不可視化されてきた男性の性暴力被害とそのトラウマからの回復の問題を、初めてこの小説の主題として立ち上げることができた。また、この成果は、これまでにない臨床心理学的な語り分析を行い、新たなトラウマ批評のかたちを提示した。</p> <p>次に、アダプテーション作品に関するオンライン研究会で、1966年に『女性セブン』に連載された三島由紀夫の長編小説『複雑な彼』とその映画化作品を取り上げ、当時の女性週刊誌と海外ツーリズムの関係、および、海外観光映画と任侠映画のブームといった背景から、この小説の成立の背景を解明した。</p>
	研究の 考察・ 反省	当初の予定と異なった点として、小説作品をとりまく雑誌や映画に関する研究が、研究発表のレベルに留まったことが反省点として挙げられる。ただし、研究発表での質疑応答や意見交換を通して、連載された女性週刊誌や映画化作品の問題と絡んだ、主人公のモデルの問題の重要性が見えてきたため、今後はさらにその点で資料調査を進め、早期の論文化を図りたいと考えている。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	<p>【研究発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> 武内 佳代「三島由紀夫『複雑な彼』とその映画化—海外観光小説から任侠小説へ」、アダプテーション研究会（同志社大学・西川貴子主催）、2022年9月10日、オンライン開催 	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>【研究成果物】</p> <ul style="list-style-type: none"> 武内 佳代（単著）『クィアする現代日本文学—ケア・動物・語り』青弓社、2023年1月 武内 佳代（分担執筆）「握った手」「文化祭」「わが待望する宗教」、『坂口安吾大事典』、勉誠出版 2022年6月 武内 佳代（分担執筆）「田辺聖子」、『日本近代文学大事典 増補改訂デジタル版』日本近代文学館・講談社 2022年5月 	